

平成 24 年 7 月 8 日 (日) 施行

第 168 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度 参照
2. 原価計算基準 第二章 八 製造原価要素の分類基準 (一)形態別分類 参照
3. 原価計算基準 第二章 一七 部門個別費と部門共通費 参照

第 2 問

1. 製造指図書 # 17、# 18 ⇒仕掛品 製造指図書番号なし ⇒製造間接費
2. 予定配賦額 ¥1,619,000－実際発生額 ¥1,631,000＝製造部門費配賦差異 △ ¥12,000 (不利差異)
3. 作業くず ¥56,000 を B 組仕掛品から控除する。
4. ¥16,000 を値引きし、売掛金と相殺する。
5. 仕掛品から機械へ振り替える。
6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	工	場	4,568,000	(貸)	当	座	預	金	3,658,000
								預	り	金
										913,000
(工場)	(借)	賃	金	給	料	4,568,000	(貸)	本	社	4,568,000

第 3 問

1. 製造間接費と直接労務費

製造間接費の配賦方法は直接労務費法であるから

$$\text{製造間接費配賦額} = \text{直接労務費} \times \text{配賦率}$$

製造指図書 # 3 の直接労務費費、製造間接費の関係より

$$\text{配賦率} = \frac{\text{製造間接費}}{\text{直接労務費}} = \frac{353,400}{228,000} = 1.55$$

この関係より、

$$\text{製造指図書 \# 1 製造間接費} : \text{直接労務費} \text{ ¥}324,000 \times 1.55 = \text{¥}502,200$$

$$\text{製造指図書 \# 2 直接労務費} : \text{製造間接費} \text{ ¥}443,300 / 1.55 = \text{¥}286,000$$

製造間接費合計額 ¥1,379,500 であるから、補習指図書 # 2 - R1 の製造間接費は ¥80,600

$$\text{製造指図書 \# 1 - R1 直接労務費} : \text{製造間接費} \text{ ¥}80,600 / 1.55 = \text{¥}52,000$$

以上より

$$\text{直接労務費合計} : \text{¥}324,000 + \text{¥}286,000 + \text{¥}228,000 + \text{¥}52,000 = \text{¥}890,000$$

2. 表の縦横を見渡し、1か所だけ()になっている箇所を計算していく。

①直接経費について、製造指図書#3の直接経費を計算する。⇒¥32,000

②製造指図書#3について、補修費の賦課はないので、小計も¥772,400であることから
 直接材料費が計算できる。⇒¥159,000

③製造指図書#1の直接材料費を計算する。⇒¥114,000

④月初仕掛品原価を計算する

⑤補習指図書#2-R1の小計¥206,600は製造指図書#2に賦課するので、
 製造指図書#2の合計は、¥1,070,300(小計) + ¥206,600 = ¥1,276,900

第4問

1. 材料の消費

先入先出法で計算するので、払出高は以下のとおりとなる。

(借) 第1工程仕掛品	1,264,400	(貸) 材	料	1,264,400
-------------	-----------	-------	---	-----------

材 料

月初棚卸高	800kg @¥373	800kg @¥373	¥298,400
当月仕入高	4,000kg @¥350	2,760kg @¥350	¥966,000
		1,240kg @¥350	¥434,000

$$¥298,400 + ¥966,000 = ¥1,264,400$$

2. 賃金の消費

(借) 第1工程仕掛品	297,000	(貸) 賃	金	1,545,000
第2工程仕掛品	1,248,000			

賃 金

当 月 支 払	¥1,534,000	¥276,000	月初未払高
		各自計算	第1工程仕掛品
月 末 未 払 高	¥287,000	¥1,248,000	第2工程仕掛品

$$\text{当月消費高} = ¥1,534,000 + ¥287,000 - ¥276,000 = ¥1,545,000$$

$$\rightarrow \text{第1工程仕掛品 } ¥1,545,000 - ¥1,248,000 = ¥297,000$$

$$\rightarrow \text{第2工程仕掛品 } \text{取引2より } ¥1,248,000$$

3. 経費の消費

(借) 第1工程仕掛品	198,000	(貸) 経	費	1,030,000
第2工程仕掛品	832,000			

経 費

月初前払高	¥208,000	¥198,000	第1工程仕掛品
当 月 支 払 高	¥875,000	各自計算	第2工程仕掛品
		¥215,000	月末前払高
減価償却累計額	¥162,000		

$$\text{当月消費高} = ¥208,000 + ¥875,000 + ¥162,000 - ¥215,000 = ¥1,030,000$$

$$\rightarrow \text{第1工程仕掛品 } \text{取引3より } ¥198,000$$

$$\rightarrow \text{第2工程仕掛品 } ¥1,030,000 - ¥198,000 = ¥832,000$$

4. 第1工程

(借) 第2工程仕掛品	1,680,000	(貸) 第1工程仕掛品	1,814,400
半製品	134,400		

第1工程仕掛品

(先入先出法)

①	¥91,200	600			
②	¥70,200	(360)	10,000		¥1,680,000
③	¥1,264,400	10,900	800		¥134,400
④	¥495,000	(11,000)	700	⑤	¥81,200
			(560)	⑥	¥25,200
	¥1,920,800				¥106,400

先入先出法により、

$$\text{材料費単価} = \frac{\text{¥1,264,400}}{10,900 \text{ 個}} = @ \text{¥116}$$

$$\text{加工費単価} = \frac{\text{¥495,000}}{11,000 \text{ 個}} = @ \text{¥45}$$

期末仕掛品の評価は

$$\text{材料費} @ \text{¥116} \times 700 \text{ 個} = \text{¥81,200}$$

$$\text{加工費} @ \text{¥45} \times 560 \text{ 個} = \text{¥25,200}$$

$$\text{第1工程払出単価} (\text{¥1,920,800} - \text{¥106,400}) / 10,800 \text{ 個} = @ \text{¥168}$$

$$\rightarrow \text{第2工程仕掛品} @ \text{¥168} \times 10,000 \text{ 個} = \text{¥1,680,000}$$

$$\rightarrow \text{半製品} @ \text{¥168} \times 800 \text{ 個} = \text{¥134,400}$$

5. 第2工程

(借) 製品	3,590,800	(貸) 第2工程仕掛品	3,609,600
副産物	18,800		

第2工程仕掛品

(平均法)

①	¥190,400	1,200			
②	¥110,320	(480)	9,400		¥3,609,600
③	¥1,680,000	10,000	200		¥18,800
④	¥2,080,000	(10,000)	1,600	⑤	¥267,200
			(880)	⑥	¥183,920
	¥4,060,720				¥451,120

平均法により

$$\text{前工程費単価} = \frac{\text{¥190,400} + \text{¥1,680,000}}{1,200 \text{ 個} + 10,000 \text{ 個}} = @ \text{¥167}$$

$$\text{加工費単価} = \frac{\text{¥110,320} + \text{¥2,080,000}}{480 \text{ 個} + 10,000 \text{ 個}} = @ \text{¥209}$$

期末仕掛品の評価は

前工程費 @ ¥167 × 1,600 個 = ¥267,200

加工費 @ ¥209 × 880 個 = ¥183,920

¥4,060,720 - ¥451,120 = ¥3,609,600

→ 副産物 取引 5 より ¥18,800

→ 製品 ¥3,609,600 - ¥18,800 = ¥3,590,800

よって完成品単位原価は

¥3,590,800 / 9,400 個 = @ ¥382

6. 製品の販売と売上原価の計上

(借) 売上原価	3,686,400	(貸) 製品	3,686,400
----------	-----------	--------	-----------

製 品

(平均法)

¥326,000	800 個 @¥407.5	9,600 個	¥3,686,400
¥3,590,800	9,400 個 @¥382		
		600 個 @¥384	¥230,400
¥3,916,800			

平均法により

$$\text{期末製品単価} = \frac{\text{¥326,000} + \text{¥3,590,800}}{800 \text{ 個} + 9,400 \text{ 個}} = @ \text{¥384}$$

期末製品の評価は @ ¥384 × 600 個 = ¥230,400

よって売上原価は ¥3,916,800 - ¥230,400 = ¥3,686,400

7. 半製品の販売と半製品売上原価の計上

(借) 半製品売上原価	138,280	(貸) 半製品	138,280
-------------	---------	---------	---------

半 製 品

(先入先出法)

¥44,200	260 個 @¥170	820 個	¥138,280
¥134,400	800 個 @¥168		
		240 個 @¥168	¥40,320
¥178,600			

先入先出法により、期末半製品単価は @ ¥168

期末製品の評価は @ ¥168 × 240 個 = ¥40,320

よって半製品売上原価は ¥178,600 - ¥40,320 = ¥138,280

8. 副産物の販売と副産物売上原価の計上

取引 8 より、副産物売上原価は¥17,000 である。

(借) 副産物売上原価	17,000	(貸) 副産物	17,000
副産物			
¥7,600	80 個 @¥95	180 個	¥17,000
¥18,800	200 個 @¥94		
¥26,400		100 個	¥9,400

副産物売上原価が¥17,000 なので期末副産物の評価は $¥26,400 - ¥17,000 = ¥9,400$

9. 費用勘定を月次損益へ振替

(借) 月次損益	3,686,400	(貸) 売上原価	3,686,400
(借) 月次損益	138,280	(貸) 半製品売上原価	138,280
(借) 月次損益	17,000	(貸) 副産物売上原価	17,000